

小児の肥満と摂食機能に関する研究 (分担研究：小児の障害につながる傷病に 関する研究)

赤坂守人，高梨 登，武井謙司，山田 博

要約：449名の保育・幼稚園児を対象に，こどもの摂食の仕方について母親・保母の立場からアンケート調査を行ない，さらに，肥満傾向のある小児と摂食の仕方との関係を検討した。その結果，母親，保母ともに「食べ方が遅い」，「いつまでも口の中にためている」などの設問に答えるものが母親，保母ともに一致して多かった。また肥満児は対象児に比べ「食事が早く」，「柔らかい物を食べたがる」と答える母親が明らかに多くみられた。

見出し語：摂食機能，肥満児，軟食化，アンケート調査

研究方法：近年，摂食行動（咀嚼，嚥下）に問題あるこどもについて，保育者の間で話題となり，厚生省の昭和60年乳幼児栄養調査でもこの種の調査が報告されている。しかし，日常の摂食状態について，問題あるか否かは，かなり観察者の主観によることが多いため，その実態は捉えにくい。

そこで今回の調査は，はじめに母親と保母という異なった立場の保育者がこどもの摂食行動についてどのように感じているかを比較検討した（第1調査）

肥満の誘因の一つに，十分咀嚼せず食事時間をかけずに早食いすると，満腹中枢を刺激しないため多食することが多いと言われているが，客観的

にこの関係を検討した報告はみられない。そこで，前述の調査と同一集団を対象に調査した（第2調査）。

調査対象は東京都内の保育園2園，幼稚園1園の計3園の3歳から6歳までの幼児の母親449名（表1），及び3園に勤務する保母である。母親へのアンケート調査は，各園を通して配布し，母親に記入してもらい回収した。設問項目は計22項目であるが，今回の調査目的に関連した項目は，(1)子供の日常生活について，(2)食欲，(3)食事の態度，(4)食べ方，(5)咀嚼嚥下の状態，である。母親の調査と併行して園児の担任の保母から，6項目の問題ある摂食行動について項目の選択と該当

日本大学歯学部小児歯科学教室

(Dep. of Pedodontics, School of dentistry Nihon Univ.)

する小児を抽出してもらった。項目別に年齢差を百分率をもって検討した。

第2調査は、第1調査の対象児のうち身体計測のわかっている403名を対象に、肥満の基準として村田らによる肥満度(15%以上)を基準に肥満群20名とした。その他の対象児から無作為に100名を抽出し対照群とした。各々の対象児の母親のアンケート内容をもとに肥満群と対照群について百分率をもって比較検討した。

結果及び検討：1.第1調査について (1)「食べ物の大きさはどのくらいにして出していますか」(図1)。3歳児では約半数が子供用に小さくしており、増齢とともに少なくなっている。(2)「お子さんは歯ごたえのある物をどのように食べていますか」(図2)では、歯ごたえのある物より軟らかい物を食べたがるものが、4.5歳児より6歳児で42.7%と多くなっている。厚生省の60年度乳幼児調査では「やわらかいものが多い」とするものが3歳児で約12%で本調査の方が軟い物を食べたがる傾向がみられた。(3)「お子さんは食べ物をどのように飲み込んでいますか」(図3)では、各学年ともほぼ平均して「よく噛まずに丸のみしがちである」が11%であった。厚生省の報告では同様の設問が3歳児では14%であった。

次いで、園児の担任の保母からみた問題ある摂食行動に関する結果を表2に示した。複数回答ではあるが、全体では27.4%になんらかの問題があると指摘されており、特に「食べ方が遅い」とするものが全体に28%と最も多く、「いつまでも口の中にためがち」とするものは26%と多く、母親の指摘とも同様の傾向を示した。しかし、「丸のみしがち」は、全体的には少なく、母親の指

摘とは一致しなかった。

2.第2調査について 村田らの肥満度15%以上の肥満群の内分けは、3歳児で6.5%、4歳児で2.1%、5歳児で5.8%、6歳児で8.8%を認めた。(1)食欲について(図4)「出した物はほとんど残さず食べる」が対照群が24%に対し肥満群は40%と高かった。対照群は「いつもあまり食べない」が13%みられた。(2)食事を楽しみにしているか(図5)に対し、「しているようだ」とするものが肥満群で80%に対し、対照群は63%と少なくなっている。(3)食事の早さについては(図6)、「早い方である」に肥満群は30%、対照群は11%と肥満群に早食いが多くみられた。(4)歯ごたえのある物については(図7)、「よく噛んで食べる」が肥満群で40%、対照群で60%、「歯ごたえのある物より柔らかい物を食べたがる」が肥満群で60%、対照群で34%であって肥満児が軟らかいものを好んで食べながら早食いの傾向が示された。

文 献

- 1)厚生省児童家庭局母子衛生課監修：乳幼児栄養の現状(昭和60年度乳幼児栄養調査結果報告書)
- 2)広瀬由治ら：小児の摂食機能に関する研究(第1報)；小児保健，43，3号，1988，(掲載予定)

表1 調査対象

年齢	3才児	4才児	5才児	6才児	合計
光の子園 保育班	20	29	21	6	76
さゆり 保育班	7	15	18	11	51
ゆかり 幼稚園	19	116	129	58	322
合計	46	160	168	75	449

表2 保母および教諭からみた摂食行動に問題をもつ子供の割合（複数解答による）

観察項目 年齢 (人数)	1. 食べ方が非常に 悪い	2. 食べ方が非常に 遅い	3. 食べ物の 残量	4. 乳飲みかしら である	5. いつまでも口 の中に入れて いる	6. 食物の口から よくこぼす	合 計
3歳 (46)	4.3 (2)	15.2 (7)	2.2 (1)	6.5 (3)	8.7 (4)	6.5 (3)	43.5 (20)
4歳 (160)	1.9 (3)	7.5 (12)	0.0 (0)	1.3 (2)	6.9 (11)	8.8 (14)	26.3 (42)
5歳 (168)	4.8 (8)	6.5 (11)	3.0 (5)	0.6 (1)	7.1 (12)	6.5 (11)	28.6 (48)
6歳 (75)	0.0 (0)	6.7 (5)	1.3 (1)	1.3 (1)	6.7 (5)	1.3 (1)	17.3 (13)
全 体 (449)	2.9 (13)	7.8 (35)	1.6 (7)	1.6 (7)	7.1 (32)	6.5 (29)	27.4 (123)
肥満 対照 (123)	10.6 (13)	28.5 (35)	5.7 (7)	5.7 (7)	26.0 (32)	23.6 (29)	100 (123)

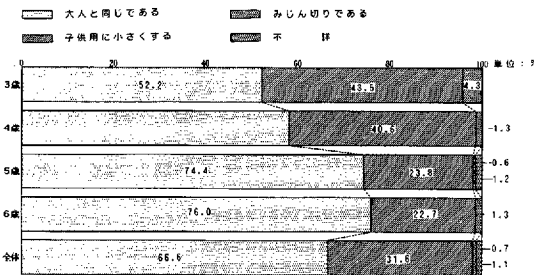


図1. 食べ物の大きさはどのくらいに出していますか。

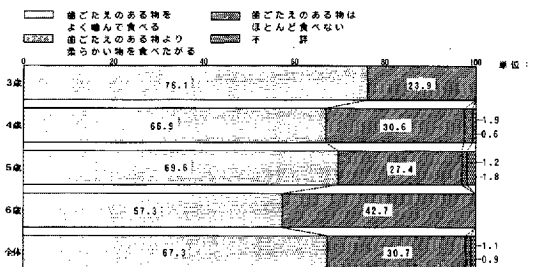


図2. お子さんは歯ごたえのある物をどのように食べていますか。

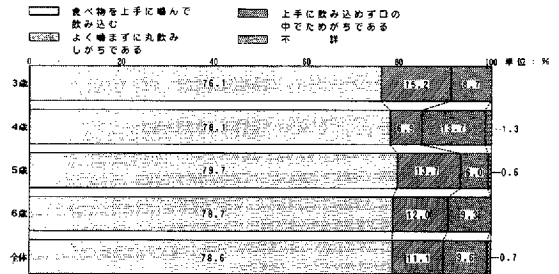


図3. お子さんは食べ物をどのように飲み込んでいますか。

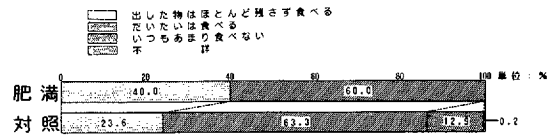


図4 お子さんの食欲はいかがですか。

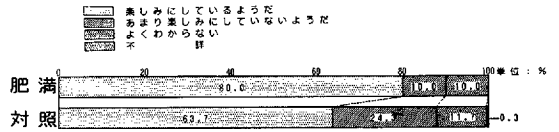


図5 お子さんは毎日の食事を楽しみにしていますか。

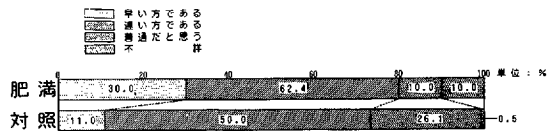


図6 お子さんの食事のペースは同年代のお子さんに比べてどうですか。

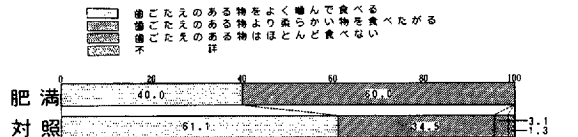


図7. お子さんは歯ごたえのある物をどのように食べていますか。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:449名の保育・幼稚園児を対象に,こどもの摂食の仕方について母親・保母の立場からアンケート調査を行ない,さらに,肥満傾向のある小児と摂食の仕方との関係を検討した。その結果母親,保母ともに「食べ方が遅い」,「いつまでも口の中にためている」などの設問に答えるものが母親,保母ともに一致して多かった。また肥満児は対象児に比べ「食事が早く」,「柔らかい物を食べたがる」と答える母親が明らかに多くみられた。